

B-26 コイガ幼虫の衣料用防虫剤に対する感受性

奈良女大家政

辻井康子

大阪成蹊女短大

○藤岡祥子

目的 家庭で衣料用防虫剤として使用されているパラジクロールベンゼン，ナフタレン，しょうのうの殺虫力をコイガ (*Tineola bisselliella* Hum.) について検討した。これら防虫剤に対するコイガの感受性については，日周性が考えられるので，羽化，産卵，ふ化及び薬剤などの外部からの刺激に対する反応性，感受性の日周性を検討した後殺虫試験を実施した。

方法 湿度 $30 \pm 1^\circ\text{C}$ ，湿度 $65 \pm 5\%$ の恒温恒湿室でカフオブレ粉と乾燥粉末酵母を餌として飼育したコイガを用いた。明暗は12時間おきの条件である。羽化率，産卵数，ふ化率，薬剤抵抗性の日周性をしらべた後，前報と同様の実験装置を用いて，各防虫剤の飽和ガス中で，コイガ幼虫の死亡率が $0 \sim 100\%$ となるように燻蒸時間とをきめて被毒させた。後コイガ幼虫を取り出してガラスシャーレに入れ，直後，24，48時間後の状態を観察し，正常期，仮死期，完全死の3段階に分類して感受性の検討を行なった。

結果 コイガ幼虫の薬剤に対する感受性には日周性がみられ，21時にもっとも高くなり9時から15時にかけて低下した。15時における幼虫の死亡率は21時におけるその約 $1/4$ である。プロビット法²⁾により各防虫剤の殺虫力を検討したところ，被毒後24時間放置したコイガ幼虫のMLTはパラジクロールベンゼン0.4，ナフタレン2.7，しょうのう2.8となりパラジクロールベンゼンの殺虫力がもっとも大きい。

文献 1) 宇尾淳子：防虫科学，33，95，(1968)

2) 河野達郎：防虫科学，18，212，(1951)